

クルーズ客船寄港増に伴う小樽港における歓迎事業について

小樽市 産業港湾部 港湾室

はじめに

平成 26 年の小樽港へのクルーズ客船の入港回数は、
昨年 の 19 回 から 38 回 と 倍 増 す る 見 込 み で す。

これまで本港における客船歓迎事業は、初寄港の客船を対象とした歓迎セレモニーや地元太鼓グループによる見送り打演などを中心に行ってきましたが、昨年、クルーズ客船誘致や受け入れ態勢の強化を図ることを目的として、国等の関係機関や市内の経済、観光、港湾関連団体並びに北後志地域の観光協会ら 23 団体からなる「小樽港クルーズ推進協議会(会長 小樽市長)」を設立し、寄港増に対応した新たな取組を実施しています。



船全景

「2014 小樽クルーズ・ウェルカム・フェスタ」の開催

小樽港に過去最大級となる「ダイヤモンド・プリンセス(総トン数 115,875 トン)」が初寄港した 6 月 7 日(土)、乗船客を歓迎するとともに小樽のクルーズシーズンの幕開けを市民にも広く周知し、クルーズ振興の機運を盛り上げることを目的として、勝納(かつない)ふ頭で「2014 小樽クルーズ・ウェルカム・フェスタ」を開催いたしました。

当日は、小樽港クルーズ推進協議会加盟団体である小樽や北後志地域の積丹町、古平町、仁木町、余市町の観光協会等による物産品販売や観光 PR、「小樽あんかけ焼そば」をはじめとする飲食ブース、市民フリーマーケットや骨董品・手作り雑貨市などに加え、地元の小樽桜陽高校と小樽商科大学茶道部による野点、同大学写真部、美術部の作品展示、販売などを行ったほか、小樽や札幌のアマチュアグループによるバンド演奏と「ゆるキャラショー」などを実施し、乗船客ばかりでなく多くの市民の皆さんにもご来場いただきました。

乗船客や乗組員の皆さんには、初寄港の小樽で盛大な歓迎イベントを開催したことに大変喜んでいただいたほか、市民の皆さんの中には、クルーズ客船を見るために初めて勝納ふ頭まで足を運ばれた方も多く、巨大なダイヤモンド・プリンセスを間近に見て楽しんでいただきました。



会場全景



後志観光協会の出店



ステージ風景



ユルキャラショー

■「サン・プリンセス北海道周遊クルーズ就航記念式典」の開催

今年、「サン・プリンセス（総トン数 77,441 トン）」が小樽港を出港して函館、室蘭、釧路、そして知床半島をクルージングした後、網走、コルサコフに寄港して小樽に戻ってくる「北海道周遊とサハリン 8 日間」が 12 回催行されるにあたり、その第一回目の出発日である 6 月 28 日（土）、勝納ふ頭において就航記念式典を開催いたしました。

式典は北海道クルーズ振興協議会と小樽港クルーズ推進協議会の共催として実施し、同船関係者とともに、国等の関係機関、小樽市及び寄港地である他の道内 4 港湾の関係者らに出席いただきました。主催者を代表して北海道クルーズ振興協議会の磯崎道利代表世話人（北海道運輸局次長）からは「このクルーズは確実に北海道でのクルーズの認知度を高めることとなります。北海道クルーズ振興協議会では、各港と連携したイベントの開催や、観光関係者とも連携した取組により、大きな経済効果が期待できる定点クルーズの一層の受け入れ環境の整備に努めてまいります。」との言葉があり、小樽港クルーズ推進協議会の中松義治会長（小樽市長）からは「北海道の港湾には毎年多くのクルーズ客船が寄港しますが、外国船籍の船で 12 回もの定点クルーズを行うことは初めてであり、その発着港に小樽港を選んでいただいたことを大変光栄に思っております。」と挨拶がありました。



磯崎次長



中松市長

マリオ・チールツイ船長からは、「素晴らしい歓迎セレモニーを開催していただきありがとうございます。これから北海道を 12 回周遊することになるので、乗船客や乗組員一同、心から楽しみにしています。」との返礼の挨拶があり、式典の最後には航海の安全と成功を祈念したテープカットを行いました。



マリオ船長



テープカット

同日 17 時に「サン・プリンセス」は次の寄港地である函館に向けて出港し、9 月 13 日（土）までの連続 12 週にもわたる北海道周遊クルーズをスタートさせました。

■おわりに

クルーズ客船の寄港は地元への経済効果が見込まれることから、各港湾それぞれに知恵を絞った誘致活動や受け入れ態勢の強化に努めているところであります。小樽港としては、昨年設立した「小樽港クルーズ推進協議会」が中心となり、官民が連携して問題意識や情報を共有しながら各種事業に取り組んでいく予定です。

あわせて、今回開催したサン・プリンセス北海道周遊クルーズ就航記念式典のように、寄港港湾が一体となって実施する PR 活動や歓迎行事なども効果的であり、今後とも北海道クルーズ振興協議会をはじめ関連団体と連携しながらクルーズ客船の誘致に取り組んでまいります。



記念撮影



出港バルーン